ふくじゅそう の会 だより

福寿草の会
愛川町介護者の会
第158号
2020年7月1日
連絡先　愛川町社会福祉協議会
Tel　046（285）2111

63

暑中お見舞い
申し上げます

水分を
とりましょうネ

皆様、いかがお過ごしですか？
まだまだ予断を許さないコロナ禍ではあるのですが、7月の定例会を、場所を変更して開催できることとなりました。
4カ月ぶりに皆様とお会いできる！　この日を待ち望んでおりましたが、以下の注意点にご留意いただき、ご参加下さるよう、お願いいたします。

7月のつどい　7月15日（水）

◇時間　1時半～3時　◇場所　中津公民館（レディースプラザ）1階第1・第2会議室
◇内容　話し合い

- 体温測定の上、37.5°C以上（同居の家族も含め）、体調不良の方がいらっしゃる場合は、ご遠慮下さい。
- マスクの着用、手洗いや手指消毒をお願いいたします。
- 参加希望者は、13日までに、役員または小沼（285－4166）までお電話下さい
- 会費を集めますので、ご用意下さい。（1200円／年）

皆様とお会いできることを楽しみにしています。

追悼　横戸喜平治さん

横戸さんは、「海老名市介護者の会・四つ葉のクローバー」の発足時からの会員で、長く会長もつとめた方です。
病気療養中でしたが、去る五月二十六日ご逝去されました。八十六歳でした。
いつも穏やかな暖かなまなざしで、私たち福寿草の会にも、応援の言葉をかけて下さっていました。
御両親の介護を長年され、特に認知症の母きよこさんとの日々を綴った詩は愛情とユーモアにあふれ、介護者を元気づけてくれます。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

介護を終わって思うこと

＝前回のアンケートより＝

＜実母（94歳）＞
母はこの世を去って10年になりますが、いつもそばにいてくれる感じです。
実母でしたので、最後まで心が通い、親子で過ごせたことが幸せでした。

＜義父母と夫＞
早くに実の親を亡くしていたので、親孝行ができると思いましたが、義妹がおり、実の娘にはとてもかなわない、と感じていました。が、両親が亡くなってからは「おねえさん」と言ってくれるようになり、良い状態になっています。

介護施設に入所したあなたへ

H・S

お元気ですか？
最後まで一緒に居られなくて、ごめんなさいね。
でも、今この時期、こういう形を選んで良かったと思っています。
私の人生で、一番長く一緒に暮らした人、そして、多くの思い出と幸せを作ってくれた人、は貴方だけです。
ありがとうございます。ただただ感謝です。　どうか一日でも長く元気でいて下さい。

介護の思い出

「やむを得ず
　介護してやっている」から
「介護させてもらっている」に
俺の意識が変ったとき
母の介護がぐんとらくになった
重度痴呆症の母が
「手間のかかる
　苦労を強いる相手」から
「老いて自立できなくなった
　人間の生きざまを
　身をもって教えてくれている」に変わり
そして母の姿と
自分の老いた姿が
重なって見えたとき
泣きたくなるほど
母がたまらなく愛おしかった
以前の介護のストレスも消え
糞尿の始末も洗いも
苦にならなくなった

平成十五年

右・右下の二編は、横戸さんの著書「人生勉強」から転載させていただきました。
「いつもにこにこきよこさん」とともに、福寿草の会にあります。ぜひ読んでみて下さい。

介護の仲間たちへ

介護に疲れたら少し休もう
迷わず介護施設に頼もう
周りの人の目も親戚の声も
何も気にせず身体を休めよう
肉親・家族の介護には
時間と労力だけではない
重たい感情もしがらみもある
そのすべてを自分だけで担うのは
共倒れへの危険な道だ
迷わず周りの人の助けを借りよう
かつて私も寝たきりの父と
アルツハイマーの母の介護で
はじめの頃はいらいらし
ご飯もまともに食べられず
父も母も憎らしい存在に思えた
可憐なスイセンも満開の桜も
味気ないものに見えた
だが、会社勤務しながらも
骨身惜しまず支えてくれる妻と
やさしい家族に支えられ
介護者の会の仲間たちに助けられた
そして、介護される父母の姿が
数年後の自分の姿だと気づき
いらいらは消えてしまった
介護中の仲間たちよ
目を外に向けよう
そして、仲間同士で話そう
疲れたら施設に頼んで外に出よう
介護で苦労しているのは
自分だけでないことを知ろう
そして新たな介護力を育もう

平成十七年